

Local Area News

安全管理体制の構築や 危険防止対策を学ぶ 伊勢崎市浄化槽清掃事業(協)

伊勢崎市浄化槽清掃事業協同組合(岩崎恵美子理事長、組合員11人)では、3月5日、伊勢崎市・伊勢崎市文化会館において「性能評価型浄化槽の清掃の実務について」をテーマに研修会を開催した。講師は、公益財団法人日本環境整備教育センター調査・研究グループ調査研究第2チームリーダー加藤裕之氏。初めに、浄化槽清掃を行う際の衛生安全対策の考え方を解説し、酸素欠乏や硫化水素中毒の人体への影響やこれらを要因とする失神などの症状で、高



加藤講師

所からの転落事故が発生する危険性が潜んでいる旨注意を促し、防止対策について説明が行われた。

次いで、性能評価型浄化槽の現状と清掃時の留意点について解説。性能評価型浄化槽は、型式ごとに多種多様な構造を持つため、性能を最大限に発揮させるためには、浄化槽の施工、保守点検、清掃に携わる各技術者は、浄化槽の特徴を理解し、それぞれに対応した技術が要求されると説明し、メーカーや機能別による内部構造の違いや清掃作業の手順、清掃頻度、清掃のポイントについてアドバイスが行われた。

組合では研修を通じて、浄化槽清掃業務の業務知識・技術の向上を図り行政・地域住民との信頼関係の構築を目指していく。

無印良品の 人気の秘密を探る

群馬県菓子問屋(商)

群馬県菓子問屋商業組合(組合員11人)では、3月17日、前橋市・前橋問屋センター会館において研修会を開催した。講師は、株式会社システムプランニング代表取締役鈴木栄治氏。「無印良品に学ぶものづくり」をテーマに講演を行った。



鈴木講師

無印良品は西友のPB(プライベートブランド)として1980年に誕生。当時のPBは今と違い「安かろう悪かろう。中小製造業叩きによる製品」というマイナスイメージであったと説明。そこで、マーケティングの考え方を取り入

れ、1号店を青山通りへ出店、チラシ・CM等の販促を行わないなど、当時としては斬新な経営戦略で他のPB商品と一線を画し、現在でも人気の高いブランドに成長したと解説した。

また、日本が成熟社会を迎え、シングル世帯の増加による「孤食・個食、小食」の拡大、女性の社会進出、健康志向・エコへの意識の高まりなどがみられる中で、流通業は「変化対応業」である必要性を強調した。さらに営業活動では、受信用と発信力を磨き、目、声、表情に留意して人と接することが大切であると呼びかけた。



LAW

警備員の資質向上を 目指して

群馬県警備業(協)

群馬県警備業協同組合(本間一男理事長、組合員10人)では、3月31日に一般社団法人群馬県警備業協会教育センターにおいて警備員の後期現任研修を行った。警備業法では、警備員に対して年2回半期ごとの研修を義務付けているため、組合が実施主体となりこれに対応している。本間理事長は開会挨拶で「道路で仕事をしているため事故に巻き込まれる確率が高く、常に危険と隣合わせであるが、決して被害者になっていけない。研修を通じて何かを掴んで欲しい」と述べた。研修では「基本教育」と「業務別教育」が行われ、警備業法・道路交通法等の法令や事故発生時における応急措置、雑踏警備における群集の整列方法等について講義が行われた。また、過去の事故事例を取り上げ、事故を回避するための意見交換も行った。さらに敬礼・休めといった基本姿勢の動作を初め、危険回避を行う動作の訓練などの実技指導を行い、警備員の資質向上と安全に仕事を行うための知識の普及を図った。



舞風ブランド 新作発表前夜祭

群馬県酒造(協)

群馬県酒造協同組合(柳澤光雄理事長、組合員31人)では、4月17日、県庁内生協食堂において、県内の蔵元15社が、群馬県産の酒造好適米「舞風」と「群馬KAZ E 酵母」を群馬の水で仕込んだオール群馬の地酒「舞風ブランド」の新作発売前夜祭を開催した。

当日は、柳澤理事長が主催者を代表して挨拶し、来賓の大澤正明知事が祝辞を述べた。



大澤知事

柳澤理事長は、「舞風ブランドは青年部のメンバーが中心となって確立された。彼らのエネルギーに対し、我々年長者は後方支援を行う。世代ごとの役割を果たし、一



柳澤理事長

体となって『温故創新』の精神で新しいブランドを育てていきたい」と語った。

会場には自慢の新作が並べられ、新酒の香り立つ中、来場者は試飲を楽しんだ。

